

(熊本県立鹿本高等) 学校 令和元年度 (2019年度) 学校評価計画表

1 学校教育目標
<p>本県教育委員会の教育指導の指針及び教育指導の重点に基づき、綱領「自主自律・質実剛健・師弟同行」のもと、生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた人間を育成する。即ち、心身を鍛え、知性を磨き、徳性を涵養して将来に備える。</p> <p>・理想とする教育理念 綱領の具現化に努め、生徒の心の成長を第一に、次に生徒の夢を実現させる学力を養成し、そして生徒の心を維持する体力を養成する。</p> <p>・求める生徒像 自信と誇りを持ち、品格ある言動を心掛け、地域の方々に愛され、信頼される徳・知・体の調和のとれた生徒。</p>

2 本年度の重点目標
<p>(1) 基礎学力の向上</p> <p>① 早期に基礎学力の定着を図るとともに、進路目標実現に必要な基礎学力を身につけさせ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすように努める。</p> <p>② 授業時間の確保と授業内容の充実に努めるとともに、家庭における予習・復習の時間を確保し、積極的な学習態度を育成する。</p> <p>(2) 一人ひとりの夢の実現に向けた進路指導の充実</p> <p>① 個に応じた指導を充実させ、生徒の進路目標達成に邁進する。</p> <p>② 面談や進路希望調査、進路講演会等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高め、早い段階で目標を明確にし、それに向けて努力させる。</p> <p>(3) 生徒指導の充実</p> <p>① 部活動と学習のバランスをとり、家庭学習時間を確保し、集中力を大切にして文武両道に努め、生き生きとして明るく規律ある学校生活を目指す。</p> <p>② 生徒の実態を正しく把握し、全教職員による生徒指導を推進し、綱領の精神の涵養を図る。</p> <p>(4) 人権教育の推進と特別支援教育の充実</p> <p>① 人権・同和教育に対する教職員・生徒の認識を深め、正しい知識や人権感覚を身につけ、あらゆる差別・いじめの解消に積極的に取り組む。</p> <p>② 生徒の発達段階に応じて、好ましい人間関係を育て、学校生活への適応や、自己理解を深めさせ、人格の成長への支援に努める。</p> <p>(5) 校内推進体制の整備</p> <p>① 「生徒確保」のための魅力的な学校づくりや、生徒の入学時の学力変化に対応するために、組織的な授業改善に積極的に取り組む。</p> <p>② 業務効率化や勤務時間削減のために、部活動休養日の設定、教育環境整備や情報機器の活用を推進する。</p> <p>(6) 家庭・地域との連携</p> <p>① ホームページや広報活動を通して、本校の教育活動や生徒の活躍を家庭や地域社会へ広く紹介し、学校と家庭・地域社会との連携を深める。</p> <p>② 地域社会でのボランティア活動を可能な限り行う。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (●)
大項目	小項目					
学校経営	本校の教育目標を理解している。	「生徒確保」の取組。	積極的な情報発信、また地域に愛され信頼される学校を目指す。	「魅力的な学校作り」や組織的な「授業改革」に全教職員で取り組む。	A	○主幹教諭が中心となり県立教育センターと協力して授業改善に取り組んだ。 ○生徒の論理的思考力の向上を目指したクロスカリキュラムを実行に移し生徒から好評であった。

<p>組織体としての一体感を醸成する。</p>	<p>学科・学年・教科・各部・各係の連携・情報共有、協力体制の整備。</p> <p>全職員による情報の共有化</p>	<p>運営委員会以外でも各部・各係の連携及び調整や検討を密にする。</p> <p>生徒情報の共有化による、教職員全員での「凡事徹底」の指導。</p>	<p>管理職を含め、各部・各係で情報を共有し、積極的な問題提起・提案を促す。</p> <p>生徒理解の研修会や進路検討会の学期1回以上設定し、充実させる</p>	<p>A</p>	<p>○年度末反省を早期に実施し、今後改善すべき点の洗い出しを進めるとともに、他の分掌にも提言を求め、より良い運営体制の構築を図った。</p> <p>○どちらも予定以上の回数実施し、計画的な生徒の育成に繋げることが出来た。</p>
<p>快適な職場環境づくりを行う。</p>	<p>学校総体としての負担感軽減の取組。</p> <p>業務効率化、勤務時間の削減。</p> <p>年休取得の向上。</p>	<p>学校行事の意味を再度考えることで、統合や廃止など精選に努める。</p> <p>校務改革の具体的提案・実践。</p> <p>働き方改革を推進し年休取得率向上により、心身のリフレッシュを図る。</p>	<p>精選された学校行事での達成感と一体感により負担感を軽減する。</p> <p>校務改革と並行して、教育環境整備や情報機器の活用を推進する。</p> <p>部活動休養日の設定など部活道指針を作成・実践する。</p>	<p>A</p>	<p>○職員研修はそのほとんどを職員会議と抱き合わせる形で実施。考査の午後に空け休暇を取りやすい環境を構築できた。</p> <p>●削減がまだ不足気味である。</p> <p>○情報機器の数を増やし、使いたいときに使える環境が整った。</p> <p>○完全下校時間の設定や部活動指針の完全実施により、年休消化率は平均で1.3日の増加をみた。</p>
<p>学力向上</p> <p>教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。</p>	<p>適切な教育課程の編成。</p> <p>教育課程の適切な運用。</p>	<p>教育課程検討委員会による検討。</p> <p>新学習指導要領への対応。</p> <p>各教科のシラバスの作成。</p>	<p>教科会の意見を集約し検討する。</p> <p>新学習指導要領に対応した教育課程の検討。</p> <p>シラバスを作成し、生徒へ提示する。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○各教科の意見を基に柔軟に対応し改善できている。</p> <p>●新学習指導要領について情報を収集し、本校生徒にあった教育課程を編成していく必要がある。</p> <p>○各クラスへ配付するとともに適切に運用されている。</p>
<p>適切な学習指導がなされている。</p>	<p>分かりやすい授業の実施。</p> <p>個に応じた適切な指導。</p> <p>授業改善の取組。</p>	<p>生徒の実態に応じた授業の構築。</p> <p>生徒それぞれの学力到達度に応じた授業の実施。</p> <p>公開授業・研究授業の実施。</p> <p>授業におけるICTの活用。</p> <p>「多面的・多角的に考察」する「探求」の授業への導入。</p>	<p>授業見学、研究授業及び教科会での授業方法の研鑽。</p> <p>確認テスト、到達度テスト、定期考査等の結果を授業に反映させる。</p> <p>公開授業は年に2回実施。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした研究授業を各教科年1回以上実施。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○芸術を除くすべての教科において、教育センターの協力を得て、授業研究を行うとともに、授業改善につなげている。</p> <p>○確認テストや個別指導を実施し、生徒それぞれに応じた指導に取り組んでいるところである。</p> <p>○公開授業および研究授業を行い、授業改善につなげたが、</p> <p>○多くの先生方が授業でICT機器を使用され、活用は大きく増加している。それにともない機器や教室の不足が課題となっている。</p>

			授業評価の実施。	年間2回の実施。	B	●実施後のデータが見える化するなどしたが授業改善への活用についてさらに検討が必要である。
	自主的・自発的な学習の支援。	家庭学習時間調査の実施。		年間2回の実施。	B	●実施後職員に集計結果を配付し、集会で説明するなど各学年で家庭学習の充実に向けた取組を実施している。
キャリア教育・進路指導	進路指導の体制が整備され、機能している。	進路部会の定例開催。	毎週金曜日に部会開催。	進路指導主事による計画立案。	A	○定例会を開催するとともに、企画を提案することができた。
		部内の役割分担と協力。	定例部会での学年毎の連携。	取組事項の事前打ち合わせと評価の徹底。	A	○良い連携ができた場面が多かった。 ●評価について不十分な点もあった。
		進路情報の共有化。	進路情報のデータベース化。	大学説明会等の情報を集約し、学年へ提供。	A	○進路情報の学年への提供は適切に行うことができた。
		教科指導力の向上。	入試問題分析。	各教科で大学入試問題等の分析を行い、生徒へ還元する。	A	○九州大学、熊本大学の入試問題分析を行うことで、授業の質の向上につなげた。
		学習と職業の関係の理解。	勤労観と職業観の涵養。	インターンシップの活用。	A	○インターンシップを実施し、職業観の涵養につなげることができた。
進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	進路決定の参考になる資料の提供。	進路通信・進路のしおり・進路だよりの発行。	進路通信・進路のしおりは年1回、進路便りは学年毎に月1回発行。	進路通信・進路のしおりの発行はできた。	B	○進路通信、進路のしおりの発行はできた。 ●進路便りの発行は毎月ではなかった。
	進路検討会の実施。	進路検討会の計画的な実施。	学年進路係、学年主任と連携し3学年5回、1・2年は2回実施。	進路検討会を通じて学年の共通理解を持って進路指導を行うことができた。	A	○進路検討会を通じて学年の共通理解を持って進路指導を行うことができた。
	進路相談は適切に行われている。	個人面談の充実。	二者面談の形で進路相談を年3回実施。	教務部と連携して学期1回実施。	B	○1学期は時間を確保して充実した面談を実施した。 ●2学期・3学期はクラス担任の裁量となりやや不十分なところもあった。
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	登校指導の取組。	各学期に計画し実施。	生徒部が立案、学校全体で取り組む。	A	○生徒指導部が中心となって指導を展開した。今後も継続する。
		下校指導の取組。	各学期に計画し実施。	生徒部の立案、学校全体で取り組む。	B	○昨年度の反省をもとに商業地での巡回指導を実施した。
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	「高校生活の心得」の徹底。	保護者への啓発。	P T A総会・地区懇談会で説明。	A	○一定の理解を得て実践することが出来ている。
	自転車二重ロックの推進。	80%以上を目指す。	毎月26日を二重ロックの日として調査。	B	●ワンロックの徹底に苦慮し二重ロックの実践には届かなかった。	

	安全への意識向上の指導を行っている。	全校集会における全体指導の徹底。	必要に応じて実施。	生徒部が計画し、考査終了時等に実施。	A	○今年度もバイク通学生生の集会を中心に必要に応じて行った。
		HRにおける担任指導の徹底。	機会を捉えて随時指導。	学年の生徒指導係を通して共通理解を得る。	A	○服装頭髪検査など学年との連携を密に指導を展開している。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	P T Aとの連携。	合同での指導を実施。	山鹿灯籠祭等の指導実施。	A	○山鹿灯籠祭の夜間補導を中心に展開した。
		近隣校との連携。	年間を通した計画。	山鹿地区4校補導の実施。	A	○近隣校との情報交換を密にし、連携をとりながら展開した。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行う。	全教職員による研修の実施。教育相談部の活用。	人権教育推進委員会と教育相談部が立案し学校全体で取り組む。	年3回以上の生徒理解職員研修を実施。	A	○年に2回(4月、10月)の生徒理解研修、その他臨時の生徒理解研修1回実施し、生徒の情報共有を図った。
	豊かな人間関係づくりに向けた指導を行う。	一人ひとりの生徒が尊重される環境づくり。	特別な支援の必要な生徒に対し、適切な対応をする。クラスの中の良好な関係を作る。	「別室登校制度」の適切な活用。 S S Tを年2回実施する。	A	○「別室登校制度」を複数の生徒が活用した。 ●実施はしたが、生徒の状況に応じ、内容を検討する必要がある。
	命を大切に育む指導を行っている。	人間としての在り方・生き方の自覚が深まっている。	自己実現を図る活動や、共生を深める活動を通して、自尊感情を高める。	5月に「命を大切に育む講演会(今年度は、外国から来た子ども支援ネットの岩谷美代子さんの講演会)を実施する。	A	○外国にルーツをもつ子ども達の現状や直面している課題などを学び、私たち1人1人にできることは何かについて考える機会となった。
いじめの防止等	インターネットや携帯によるいじめなどの防止に努める。	教師と生徒の双方が現在の状況を理解する。	誹謗中傷への対処法を理解させ、相談窓口等を周知する。	情報モラル講演会を実施するホームページ等で相談窓口を繰り返し掲載する。	A	○情報モラル講演会の実施、スマートフォンに関するマナー、モラルの徹底を図り、いじめのない人間関係の構築を目指し実践した。
	「いじめを未然に防ぐ」体制・意識の確立。	「いじめ問題対策委員会」の活用。「ネットいじめ等早期対応推進事業」の活用。	年間を通して「いじめ防止」の意識を涵養する。特に6月は集中的に全教職員で取り組む。	6月の「心のきずなを深める月間」を中心に、標語の作成や講演会等を実施する。	A	○6月の生徒総会で「いじめ根絶宣言」を提唱し生徒1人一人に訴えた。各学期ごとのいじめ問題検証委員会では各学年、保健室との連携を図り、いじめのない学校づくりの確立に寄与した。
地域連携・コミ	学校運営協議会(防災型コミュニティ・スクール)の設置、運用。	熊本地震を経験した生徒の防災意識の高揚と、地域と一体となった災害時の連携体制の構築。	災害時の学習支援体制の構築及び、自主的かつ協働的に活動できる生徒の育成を目指した教育課程の検討。	熊本地震を踏まえた各校独自の「防災教育」の設定。	A	○運営委員の方と防災マニュアルを情報共有し、一次避難所運営について協議することができた。

ユニ ティ ・ス ク ール など		震災時の避難所運営における経験に基づいた地域との連携を考慮した防災マニュアルの検討。	山鹿市行政及び警察・消防、地域住民等との災害時の初期対応の連携体制確認。 災害時の防災マニュアルの見直し及び行政や地域との情報共有。		○第2回学校運営協議会では、併せて避難訓練も実施し、生徒の避難訓練状況について意見をいただく機会を設定することができた。
	総務部とPTA（保護者）との連携。	連携を密にとることで、総務部関連行事、PTA関連行事およびPTA活動が活性化している。	PTA総会、PTA役員会や各種委員会の適時開催。	PTA総務委員会、PTA各種委員会にて具体案を協議立案し、PTA（保護者）と教職員が連携して実施する。	B ○PTA総務委員会、PTA各種委員会において熱心に活動して下さる方がおられるので行事がうまくいっている。 ●今年は7月の土曜日にPTA集会を地区別懇談会にかえて実施したが、出席率が悪かった。次年度からは各地区での開催に戻し出席率の向上に努めたい。
	奨学金などの支援活動を確実かつ適切に行う。	保護者・生徒への周知が徹底され、適切な事務処理ができています。	適切な機会に、奨学金等の情報を提供し、生徒の就学の支援をする。	PTA総会、HP、教室掲示などで奨学金関係の情報提供をし、必要に応じて説明会を実施する。	A ○PTA総会、教室掲示等で情報提供を行った。申請を希望する生徒や保護者に対し細やかに対応した。 ●保護者への対応を担当者全員で分担できると負担軽減になる。
	地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を活用する。地域団体（住民）との連携を活発にする。	地域の伝統行事等への理解と参加。地域団体・地域住民との交流促進。	地域団体・地域住民の要望への対応。ボランティアや文化系部活動による協力。	教頭や生徒会担当、ボランティア係などの関係教職員が適切に対応する。たくさんの生徒が、積極的に地域のボランティア活動に参加する。	A ○今年度も地域貢献型のボランティア活動を中心に数多くの生徒がボランティア活動に参加した。地域の方々からも感謝の言葉をいただき、今後もさらに活発な活動が出来るよう寄与していきたい。
	保護者・地域の方々に学校の活動内容を理解していただいている。	定期的で適切な情報発信ができています。	学校内外での生徒の活動の様子を、ホームページへ掲載、保護者によるPTA新聞「めいりん」の発行。	新しいホームページを整備し、学校からの素早い情報発信に努める。 生徒の学校生活の様子や活動成果等を生徒のコメントと共にホームページや「めいりん」で紹介する。安心安全メールの効果的な活用。	B ○先生方の協力により、生徒達の活動の様子を数多くホームページに載せ、地域に発信することができた。 ○今年度の「めいりん」はデータが揃うのが早く余裕を持って発行することができた。 ●文化広報委員会の出席率が良くない。

保健安全管理	保健・健康教育に関する指導体制が整っている。	保健委員会活動の周知。	年2回の保健委員会キャンペーンの実施。	保健委員会で立案し校内掲示。	B	●キャンペーン活動は7月に1回のみ実施。保健委員会の活性化に努めたい。
		学校保健委員会の開催。	年1回の開催。	学校医、PTAと連携を取り3学期に実施。	A	○学校医。PTAに参加してもらい、充実した会となった。
安全点検や環境美化に関する取組に努力している。	危険箇所の点検。	年3回の安全点検の実施。	生徒指導部保健環境班が立案し、学期に1回実施。	A	○年間計画から少し変更して実施したが、適当な時期に点検することができた。修繕や要望には事務部と連携して対応できた。	
						美しい学校づくり。
		年2回以上の花壇の整備。	生徒指導部保健環境班と環境美化委員の取組。	A	○玄関前や中庭等の花壇に花を植えることができた。	
教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	生徒・教職員が安心して教育活動に取り組める環境づくり。	不良箇所への速やかな対応、修繕。	生徒指導部保健環境班及び事務部で情報収集し、迅速に対応。	A	○安全点検で集約した破損・修理箇所を中心に、事務部には迅速に対応いただいた。
			特定建築物指定に伴う環境衛生の確保。	事務部で情報収集し、迅速に対応。	A	○年間で委託契約している専門業者による点検を行い、適切な環境衛生を確保した。
図書館教育	メディアリテラシー能力（情報を評価・識別する能力）を育てる。	読書習慣の定着。	利用者、貸し出し冊数の増加。	図書館オリエンテーションの実施。企画展示コーナーの設置。	A	○貸出冊数は1月末で一人当の貸出冊数は12.1冊で昨年度より2冊増加した。○図書委員とともに展示コーナーの企画や廊下の掲示を行い、ライブラリーニュースで図書館の情報を発信することができた。
		学習・探究・情報センターとしての図書館づくり	利用しやすい環境づくりや授業等への資料提供の充実。	館内の案内表示の作成。公共図書館等を利用した相互貸借を行い、充実した資料提供を行う。	B	○授業での図書館利用においては総探や生物、保健を中心に207時間となり、昨年度と比べ29時間増加した。○場合に応じて近隣の図書館等から相互貸借を行い、授業等で資料を提供した。

4 学校関係者評価

本校では四年前から保護者・生徒・職員に同じ内容のアンケートを実施し、三者の意識や評価を比較・分析できるようにしている。また昨年からは過去三年間の経年比較も実施するようになった。学校関係者評価委員会では、本校の総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部と今年新設した研究開発部が取組とともにアンケート結果の分析についても説明を行った。

アンケートでの生徒評価が全体に横ばいまたは下がる傾向にある中、「学校行事の積極的な参加」と「部活動や生徒会活動」の項目では高い評価を維持した。本当に久しぶりに復活した団席の櫓により教師と生徒が協力して人文字を実施するなど新たな挑戦が行われた体育祭など、生徒一人ひとりが主役になった感覚がこのような高結果を産んだのではないかと考える。また、それに加え百人一首部、合唱部、剣道部、柔道部などが全国大会に進出する活躍が大きく影響していると思われる。

保護者からの評価については、多少の変化はあるものの総じて高い状態を維持している。学科新設とそこにおける生徒育成への積極的な取組が、鹿本高校自体への信頼を高めていると考えられる。

職員からの評価は総じて向上傾向にある。しかし「生活面」や「掃除」の評価は昨年度より低くなった。大きな定員割れにより全入状態となって数年が経過し、生活態度に課題がある生徒も目立つようになってきている。それに加え余裕のある学校生活を目指して掃除時間を5分短縮したのが大きく影響を与えている。

評価委員会でも委員の方々から本校生徒の落ち着いた学校生活、服装・挨拶・清掃等への取組等に大変高い評価を受けた。また、これからの山鹿地域をどのように変えていくべきなのかもっと提案・実施して欲しいとの提言もいただいた。地域とともに生きていくという視点を私たちはもっと積極的に考えていく必要がある。その点今年度開設のみらい創造科に対しては大きな期待を寄せられていた。SSH指定校獲得への取組や新しい指導要領実施に向けた授業改革、生徒の自主性を養うような校則の改正や学校行事の見直しについても肯定的な意見が多く、今後も積極的な発信に努め、熊本市内に流出していく生徒を止められるよう努力したいと思った。

5 総合評価

学校評価アンケートの結果や自己評価及び学校関係者評価から、本校の綱領である「自主自立・質実剛健・師弟同行」、教育理念である「綱領の具現化に努め、生徒の心の成長を第一に、次に生徒の思いを実現させる基礎学力を養成し、そして生徒の心を維持する体力を養成する」という目標については、現時点では概ね実現できていると考える。

進路指導は積極的な改革が功を奏し高い評価を得た。学習指導に対しては評価の改善に対する取組と学力層が広がった生徒に対する授業の構築にはまだ改善の余地がある。みらい創造科創設を機にこれまで20年続けてきた「総合的な学習の時間」における探究活動を、今年是新設の研究開発部に「再構築」してもらった取組を実施した。これによって論理的思考力やコミュニケーション能力、批判的思考力、レジリエンス、創造力などを最終的にプレゼンテーション能力として昇華させる基礎がさらに固まった。

情報発信では、主幹教諭を中心に数名で中学校や塾に5月から訪問した。塾の対応は様々であったが、本校のグローバル探究コースへの期待感は確実に感じ取ることができた。また、中学校からは様々な情報を得ることができ、入試だけでなく本校に在籍している生徒の状況把握にも役だった。

授業改革については昨年まで教員の自己評価とは逆に生徒の評価が上がらない現状があったが、今年はクロスカリキュラムの実施、県立教育センターとの共同研究の実施などこれまでの成果が一気に花開き、大きな収穫となった。英語科のスーパーティーチャーが赴任した影響も大きく、周辺小中学校の英語教育の要として確実に浸透しつつある。

特別支援教育やいじめの防止、人権教育及び命を大切にすることを育む指導等については、担当委員会をはじめ各分掌の協力と努力で充実してきている。講演会も効率的に開催され、充実したものとなっている。しかし、残念ながら他者に対する配慮があまりできない生徒が増えてきていることもまた事実である。今後とも、機会ある毎に繰り返し生徒には訴えていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

新学科の立ち上げを終え、現在はSSH申請も終わり結果待ちの状態である。新学科での探究活動やクロスカリキュラムの計画立案も進み、これからは学年進行で広げていこうという段階となった。授業改革については同じ山鹿市にある県立教育センターとの協力関係を更に進め、検証授業の増加とともに職員研修のさらなる充実を図っていききたい。研究開発部長でもあるスーパーティーチャーを核とした周辺小中学校との連携は来年度以降も強化を続け、協力関係の強化を図るとともに、授業改革で先行する中学校からも良いものは積極的に取り入れさらに積極的な連携を進めていく。今年度から実施したバイク通学生の通学距離制限緩和も好評であり、今後も規制緩和に積極的に取り組んでいく。進路指導については目まぐるしく変わる入試制度へ十分に対応してきた。来年度以降も積極的な情報収集に努め、生徒に安心感をもたらせたい。働き方改革の推進には、管理職が率先して校務の削減を図り職員の時間的余裕を生み出す必要がある。休暇取得の推進も含め積極的に取り組みたい。また今年度は「鹿本高校に入学して良かった」という生徒は70%であった。来年度はぜひ80%を超えるよう努力していききたい。